HASHIMOTO SOGYO COMMUNICATION
team hat Magazine
hat | 橋本総業ホールディングス 2025 VOL.18

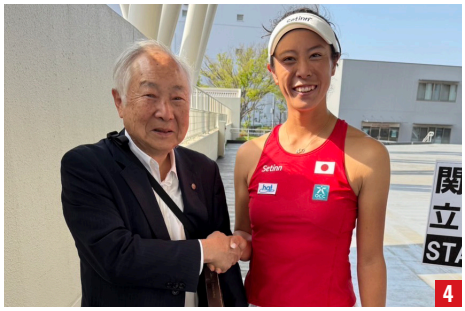
柴原瑛菜が日本代表として単複で活躍し勝利に導く！

写真：鯉沼宣之 1

1 1位でファイナル進出を決めた日本チーム。2 柴原瑛菜はシングルス2に起用され、1勝1敗。3 カナダ戦では勝負がかかったダブルスに青山修子とのペアで出場し勝利をつかんだ。4 有明の会場で橋本政昭会長の激励を受けた。

写真：鯉沼宣之 2

写真：鯉沼宣之 3


4

『2025 ビリー・ジーン・キング・カップ by Gainbridge ファイナル予選グループ A』が4月11日(金)から13日(日)まで有明コロシアムで開催された。日本、カナダ、ルーマニアの3カ国で総当たり戦を行い、1位のチームが9月16日から21日に中国の深圳で行われるファイナルに進出する。

シングルス2（S2)、シングルス1（S1)、そしてダブルスの順に戦い、先に2勝したチームの勝利となる団体戦。4月12日にはルーマニア戦が行われ、柴原瑛菜はS2として出場。ランキングはチーム内で3番手だったが、杉山愛監督が「最初に出る選手として、プレーぶりも雰囲気も彼女の底抜けに明るいキャラクターがチームの太陽のようにいつも光を与えてくれる」との思いから選出。柴原は期待通りのプレーを披露し、日本はルーマニアに3-0で勝利した。

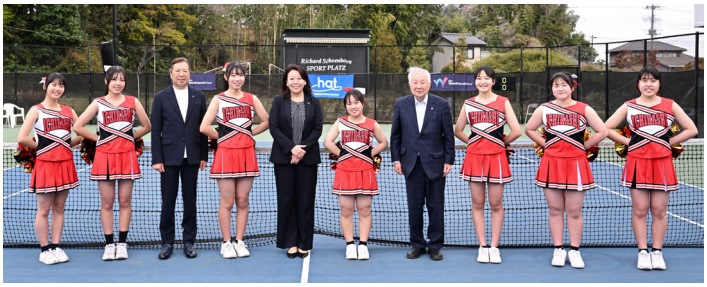
13日には、1勝0敗で並ぶカナダと対戦。柴原は再びS2で起用されるも、18歳のビクトリア・エムボコに2時間45分の激闘の末に敗れた。柴原は「強気で打っていってそれが入ってくれたし、スイングをしていけばいいことがある。マッチポイントでも最後の最後までファイトができた」。できる全てのことを出し尽くした達成感に、表情は明るかった。

日本がS1に勝利し、ダブルスに勝敗が掛かった時点で、杉山監督は青山修子とのペアで再び柴原をコートに送り出す。パリ五輪以来のペアリングとなった2人だが、コートに入れば、そのコンビネーションは健在。青山のストロークに柴原がネットで呼応しフルセットで日本チームの勝利を決めた。

柴原は「シングルスで負けていたので、リベンジという気持ちでダブルスに入った。第2セットは私のプレーの質が落ちたが、3セット目は切り替えていけた」と、監督の信頼に答えた。日本は1位となり、昨年に続きファイナル進出を決めた。

かしわ国際オープンで河内一真が複優勝

橋本総業ホールディングスがスポンサーとなっている「第26回かしわ国際オープンテニストーナメント2025」が、4月1日（火）から4月6日（日）にわたり、千葉県・吉田記念テニス研修センターで行われた。ITFツアーM15とW15の男女同時開催であり、多くの若手選手が世界へ飛び立つチャンスをつかもうと奮闘。そんな中、所属選手の河内一真がダブルスで優勝を果たしている。



最終日のセレモニーではチアリーダーたちが盛り上げた

セレモニーで挨拶をする橋本政昭会長

ダブルスで優勝した河内一真／松田康希組

坂詰 姫野

Himeno Sakatsume

写真提供／京都府テニス協会 撮影／真野博正

ITF W50 SINGLES 準優勝

ITF W50
甲府国際オープン
3月17日～3月23日
シングルス準優勝

ITF W50 SINGLES 準優勝

ITF W50
島津全日本室内
3月10日～3月16日
シングルス準優勝

河内 一真

Kazuma Kawachi

写真提供／京都府テニス協会 撮影／真野博正

JTT2 DOUBLES 準優勝

JTT2
島津全日本室内
3月5日～3月9日
ダブルス準優勝

瀬間 詠里花

Erika Sema

ITF W35 DOUBLES 準優勝

ITF W35
オーストラリア・ロンセストン
2月24日～3月2日
ダブルス準優勝

柴原 瑛菜

Ena Shibahara

WTA125 DOUBLES 準優勝

WTA125
メキシコ・プエルトバジャルタ
3月24日～3月30日
ダブルス準優勝

小堀 桃子

Momoko Kobori

写真提供／京都府テニス協会 撮影／真野博正

ITF W50 DOUBLES 準優勝

ITF W50
島津全日本室内
3月10日～3月16日
ダブルス準優勝

ITF W50 DOUBLES 優勝

ITF W50
甲府国際オープン
3月17日～3月23日
ダブルス優勝

ITF W35 DOUBLES 優勝

ITF W35
富士薬品セイムズウィメンズ
4月7日～4月13日
ダブルス優勝

大前 綾希子

Akiko Omae

ITF W50 DOUBLES 優勝

ITF W50
インド・アーメダバード
2月24日～3月2日
ダブルス優勝

ITF W50 DOUBLES 準優勝

ITF W50
甲府国際オープン
3月17日～3月23日
ダブルス準優勝

テニス選手の
海外遠征エピソード

海外遠征という響きは素敵だけど、実は大変なことが多い。
選手たちにエピソードを教えてもらった。

ハプニング！　意外に大変!?

岡村 恭香 Kyoka Okamura

インドではホテルや移動でハプニングが続出!

遠征に行くと、ホテル関係では問題が発生しやすいです。インドに行った時には、ホテルの予約をしていたのに、予約がないと言われて通りに出されたり、鍵が閉まらない部屋に通されたこともありました。夜にタクシーで空港へ移動している時に、途中で止まってしまい降ろされそうになったことも。必死で交渉してどうにか行ってもらいましたが、この時は１人でなくて本当によかったと思いました。インドはハプニングが多いので、もう行かないようにしています。逆に過ごしやすい国は、オーストラリアやタイですね。

河内 一真 Kazuma Kawachi

手配が大変!　負けた瞬間に飛行機チケットを検索

僕のレベルだとマネージャーはいないので、１人で遠征に行くことが多いです。大変なのは遠征の準備、手配です。飛行機もホテルも自分で予約をするのですが、苦労するのが飛行機です。遠征先から違う遠征先に行くため、往復で取れません。その上、日程が決められないので、試合に負けた瞬間にネットで検索して、できるだけ安く行けるチケットを探します。また、事前にビザが必要な国なのかどうかを調べて準備したりと、リサーチも必要です。さすがに慣れてきましたが、プロになりたての頃は本当に大変でした。

小関 みちか Michika Ozeki

ストライキで電車に乗れず呆然としていると救世主が!

ヨーロッパ遠征に５週行った時のことです。電車でいくつかの国を移動していて、スペインでストライキが起きました。アナウンスが入りましたがスペイン語で理解できず、皆はどんどん電車から降りて行くし困っていたら、親切な人が「運転手さん帰っちゃったよ」って英語で教えてくれました。ひとまず降りましたが、どうすればいいか途方に暮れていると、地元のおばちゃんが声をかけてくれて、行き先を伝えると「何番ホームから電車が出るから」と教えてくれました。ストライキは急なことでネットにも情報が出ないので状況把握が難しいです。この遠征で電車が止まることは３回ぐらいあり、困り果てましたが、現地の人に助けられて、優しい人がいるなということに気付けるのは楽しいです。

シェアの相手をインスタで探す合わないと寝られないことも…

遠征先で本当に日本人が自分１人で、誰も知り合いがいないということがありました。そういう時は、ホテルをシェアする相手をインスタで探します。「シェアしない？」と持ち掛けますが、ヨーロッパの選手は結構返信が遅いので簡単ではありません。外国人とのシェアでは、生活リズムが違うことがあります。朝はゆっくりで夜遅くまで起きている相手だと、寝れないこともありキツイですね。練習相手やダブルスパートナーも見つけるのが大変で、片っ端から声をかけました（笑）。

奥脇 莉音 Rinon Okuwaki

井上 明里 Akari Inoue

タイで帰国前日に牡蠣を食べて飛行機で気絶

食中毒には３回なったことがあり、死にかけたぐらい酷い症状に陥ったのはタイでした。帰国する前日に牡蠣を食べたんです。朝、少しおかしいなとは思いましたが、飛行機の時間もあるのでタクシーで空港へ。状態はどんどん悪くなるのに渋滞にはまり、なかなかトイレにも行けず、飛行機に乗ったら気絶しました。日本に着いてから病院に行きましたが、10日間ぐらい動けず、水分さえも自分で飲めず、点滴です。それ以降、牡蠣が食べられなくなったという悲しい結末も付いています。

働くピックルボールプレーヤー

HINANOのコラム

テニスの経験を生かし、ピックルボールというラケットスポーツにチャレンジする総務部の福永雛乃が、競技を通して目指すこれからの夢を語る！

プロジェクトの動画はこちら！

PICKLEBALL

ピックルボールのトップ育成プロジェクトに選抜

ピックルボールは日経トレンディにピックアップされ、オリンピック競技にもなる可能性が高いスポーツです。アメリカ発祥ですが、世界でも日本でも競技人口は、かなりのスピードで増加しております。

バドミントンと同じ広さのコートで、卓球のようなラケットを使い、プラスチック製の穴のあいたボールをテニスのように打ち合うこの競技は、とても簡単で、小学校など教育の場で、授業として組み込んでいるところもあるそうです。

また、場所や年齢、老若男女も問わず、未経験者でもすぐにラリーができることが特徴的で、社内コミュニケーションや健康活動にはとても良いツールだと思っています。

大学時代のテニス部同期からの誘いがきっかけで始めましたが、とにかく楽しく、すぐに試合にも出場しました。運動もせず、家と会社の往復生活だった私の人生が一変したのは間違いありません。

３月には世界で戦い、活躍できるトッププレーヤーを育成する「Pickleball X」というプロジェクトに全国約１３０名の中から選出していただき（男女各６名ずつ）、現在はチームでの練習を行なっています。

週５日フルタイム勤務の正社員として働いているため、たくさんの練習はできませんが、限られた時間の中で、課題と目的をしっかりと持って練習に励んでいます。

また、国外の大会に出場する際は有給を取得して出場するため、職場の皆さんのご理解もいただき、大変感謝しています。

私自身が結果を出すことも目的の一つですが、最終的に目指すのは競技を通しての社会貢献です。体を動かす、運動することの楽しさや、そこで生まれる充実感、達成感を多くの方に味わっていただき、多くの方々が笑顔になってほしいと思いますし、それを伝えていくことが一番の目標です。

プロジェクトの HP

トップ育成プロジェクトに選抜され、競技の向上、認知とともに、社会貢献を目指す

PROFILE

福永 雛乃

Hinano Fukunaga

鹿児島県生まれ。駒澤大学卒業後、橋本総業へ入社。幼少期はピアノにサックス、テニスや水泳等　様々なジャンルの習い事に触れ、中学以降はテニスに絞り、全国大会・国体に出場。大学では体育会に所属した。現在は、総務部業務とTEAM HAT のマネージャーを務めながら、自身もピックルボール選手として活動中。

TOPICS

ゴルフ GOLF

吉﨑マーナが昨年に続いてベストアマを獲得!

高校生ゴルファー吉﨑マーナが、沖縄県・琉球ゴルフ倶楽部にて３月６日から９日にわたり開催された「第 38 回ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント」に出場。12 位タイとなり２年連続でベストアマを獲得した。

吉崎は自身のインスタグラム（@ mana.y0917）に「悔しい思いが強いですが、去年の自分より成長出来ている部分をこの大会を通して沢山感じることができました。そして今年プロテストを控えている中で、本当にいい経験をすることができました。来年はプロとして、この舞台に戻ってこれるように頑張ります！！！」と報告。益々の活躍に期待したい。

吉﨑マーナが 12 位タイでベストアマに輝く

発行：橋本総業ホールディングス株式会社　編集：Tennis.jp　デザイン：鷲見善弘（こうぼく堂）
●本誌掲載の記事、写真など全ての無断掲載、複写を禁じます。